

2013年2月6日

(ご参考)

マツダ株式会社
2013年3月期 第3四半期決算説明会
(スピーチ要旨)

代表取締役会長

社長兼CEO(最高経営責任者)

山内 孝

1. 総括

第2四半期に引き続き、第3四半期でも、円高環境ながら全ての利益レベルで黒字を達成する事ができました。第3四半期累計の売上高は1兆5,352億円、営業利益は196億円、当期純利益は256億円となりました。円高環境下でも利益を創出する新型CX-5がグローバルで大ヒットし、業績改善に大きく貢献しました。グローバル販売台数は、前年同レベルの89万3千台となりました。

商品面でも、新型CX-5が「日本カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞するなど、高い評価を獲得しています。また、SKYACTIV搭載車両の第2弾 新型Mazda6/アテンザを日本、欧州に導入しました。いずれの導入市場でも予想を上回る受注をいただいています。

為替前提の変更と固定費の改善により、売上高および全ての利益レベルで、通期見通しを上方修正します。修正後の売上高は2兆1,900億円、営業利益は450億円、当期純利益は260億円の見通しです。商品面では、第3四半期に日本・欧州に導入した新型Mazda6を北米などの主要市場に導入します。新型CX-5同様、円高環境下でも利益を創出する新型Mazda6が、第4四半期以降、収益拡大に貢献してくれる事を期待しています。今期のグローバル販売台数は125万台の見通しです。後ほど詳しくご説明しますが、構造改革プランの4つの施策も着実に進捗しています。

執行役員

古玉 尚

2. 2013年3月期 第3四半期累計実績

当第3四半期累計の連結売上高は、前年から1,169億円増の1兆5,352億円となりました。

連結営業利益は196億円と前年同期に対しては739億円の改善となりました。この内訳については後ほどご説明しますが、主に新型CX-5効果による台数・構成の大幅改善が寄与したものです。

経常利益は214億円となりました。これは、第3四半期での外貨建債権の評価益の計上が主な要因です。税引前利益は301億円、当期純利益は256億円と全ての利益レベルで黒字を達成することができました。

為替レートは平均で 1ドル80円、1ユーロ102円と、前年に比べ、ドルで1円の円安、ユーロで9円の円高となりました。

グローバル販売台数は、前年に対し2千台増加の89万3千台となりました。

車種では、新型CX-5が14万台の販売を達成し、グローバルで販売を牽引しています。

地域別では、日本、米国、オーストラリア、ASEANなどの主要市場で販売好調を継続し、前年を上回る販売を達成しています。

続いて、各マーケットの状況についてご説明します。

まず日本では、対前年9%増の15万台となりました。

日本カー・オブ・ザ・イヤーを受賞した新型CX-5は、2012年SUV国内販売台数第1位を獲得するなど販売を牽引しています。

SKYACTIV搭載車両 第2弾の新型アテンザの評価も高く、発売から約2ヵ月で月間販売計画1,000台の9倍を超える約9,700台の受注をいただいております。

また、新型CX-5同様、新型アテンザのディーゼル販売比率は見通しを過達し、新しいディーゼル市場を創出しています。

北米全体では、対前年2%増の27万台の販売となりました。

米国では、新型CX-5およびSKYACTIV搭載のMazda3が販売を伸ばし、対前年5%増の19万5千台となりました。

2012年暦年では、SKYACTIV搭載車が全体の約50%を占めており、新商品への転換をリードしています。

また、フリート比率の抑制、インセンティブ抑制の活動などブランド価値向上の施策を継続しています。

欧州全体では、11万9千台の販売となりました。

販売好調な新型CX-5に続き、新型Mazda6を、ドイツなど一部市場で先行導入いたしました。ドイツでは、Autobild誌のメディアムカー比較評価で1位を獲得するなど高い評価をいただいております。

また、ドイツでは、新型CX-5の拡販効果により第3四半期は前年比増の販売となっています。

ロシアでは、新型CX-5が販売を牽引し対前年3%増の3万2千台の販売を達成しました。また、10月にはソラーズ社との合弁生産会社で新型CX-5の生産を開始しました。

中国では、対前年22%減の12万9千台となりました。

厳しい市場環境ではありますが、徐々に販売は回復傾向にあります。

また、11月には、「長安フォードマツダ汽車(CFMA)」の分割再編が正式決定し、新会社「長安マツダ汽車」が発足いたしました。この再編計画の実現により、今後、中国でのビジネス基盤の更なる強化を図ってまいります。店舗数は前期末から32店舗増えて、12月末では403店舗と、販売網の拡充も着実に進捗しています。

その他市場全体では、対前年16%増の22万5千台となりました。

オーストラリアでは、2012年暦年で過去最高の販売台数10万4千台と、シェア9.3%を獲得しました。

輸入メーカーとしては初めて10万台越えを達成し、メーカー別販売台数第3位となりました。

車種では、Mazda3が、2年連続で販売No.1モデルとなり、販売を牽引しています。

ASEANでは、対前年63%増の7万8千台と、販売拡大を継続しています。

タイでは、Mazda2、BT-50を中心に販売を伸ばし、対前年86%増の6万台と過去最高の販売台数を達成しました。

また、インドネシア、マレーシアでも過去最高の販売台数およびシェアを獲得しています。

次に、連結営業利益の前年に対する改善額739億円の主な要因についてご説明いたします。

まず台数・構成では332億円の大幅改善となりました。新型CX-5効果やSKYACTIV搭載車両を中心としたインセンティブ抑制が寄与しました。

次に為替ですが、11月後半以降の円高是正の影響もあり、USDドルで39億円の改善、ユーロでは63億円の悪化、その他通貨は8億円の改善と合計で16億円の悪化となりました。

変動コスト領域では、コスト改善に加え原材料価格の低下もあり、272億円の改善となりました。

販売費用は、新型CX-5のグローバルローンチに伴う広告宣伝活動強化などにより、19億円の費用増となりました。また、その他固定費領域では170億円の改善となりました。

3. 2013年3月期 見通し

2013年3月期の連結財務見通しについてご説明します。売上高は対前年1,569億円増の2兆1,900億円の見通しです。営業利益は450億円、当期純利益は260億円と、売上高および全ての利益レベルで上方修正をいたします。

営業利益については、前年から837億円の改善、10月公表からは200億円の増加の見通しです。それぞれの要因については後ほどご説明します。

為替レートは平均でドル・ユーロそれぞれ、81円、104円の見通しです。

グローバル販売台数は、販売好調の新型CX-5に加え、第3四半期より導入した新型Mazda6を始めとするSKYACTIV搭載車両の牽引により前年から3千台増加の125万台の見通しです。

中国の台数減を除くと対前年で5万6千台の増加となります。
第4四半期の地域別販売取組については、後ほどご説明します。

前年からの営業利益変動837億円改善の要因についてご説明します。

台数・構成では、新型CX-5および新型Mazda6を始めとしたSKYACTIV搭載車の拡販による台数増、および地域・車種ミックスの改善効果により、376億円の改善見通しです。

為替は、USDドルで80億円の改善、ユーロで45億円の悪化、その他通貨で50億円改善し、合計で85億円の改善となる見込みです。

コスト改善では、VA、VEの活動強化などにより367億円改善する見込みです。

また、その他固定費領域でも89億円の改善見通しです。

10月公表からの営業利益 200億円の改善の要因についてご説明します。主に、為替およびその他固定費の改善によるものです。

まず為替ですが、為替前提を見直したことにより、USDドルで47億円の改善、ユーロで 50億円の改善、その他通貨の87億円の改善と合わせて184億円の改善となります。

その他固定費領域では、開発費、償却費の見直し等により、26億円の改善の見通しです。

第4四半期の販売取組みについて説明いたします。

まず、日本では、SKYACTIV搭載車に設定している残価設定クレジット「SKYプラン」などの販売施策強化により、販売好調な新型アテンザの更なる販売拡大を図ります。

また、新型CX-5の販売モメンタムを継続するとともに、ミニバンで初めてSKYACTIV技術を搭載した、プレマシーを導入します。

続いて北米では、新型CX-9の導入成功に向けての取組みを進めます。更に、今期の販売増に向けて、新型CX-5の2.5Lモデルによる販売増および今年より導入を開始した新型Mazda6の来期の本格導入に向けての販促活動を実施します。

また、フリート抑制などのブランド価値向上の継続・強化も引き続き取り組みます。

欧州では、第3四半期にドイツなどで導入開始した新型Mazda6のほかの欧州諸国への導入に向けての活動を強化します。また、新型CX-5の供給を拡大し、更なる販売拡大へ取り組みます。

中国では、尖閣問題以降落ち込んだディーラートラフィックの改善、成約率のアップをめざします。具体的には、地域モーターショー、試乗会等のイベントを積極的に活用した販促活動、および広告宣伝活動を強化します。また、車種では、Mazda3、Mazda6に焦点を当てた販売活動を強化いたします。

その他市場については、販売好調のオーストラリア、ASEANを中心に更なる拡販を図ります。

オーストラリアでは、販売No.1モデルのMazda 3に加え、昨年12月導入の新型CX-9、新型Mazda 6による商品力の強化により、通期でも、過去最高の販売台数およびシェア獲得を狙ってまいります。

ASEANでも更なる販売拡大を目指し、地域ではタイ、インドネシアを中心に、車種ではMazda2、新型BT-50、新型CX-5などの販売強化策を実施します。

また、新型Mazda6の導入成功に向けての取組みも強化します。

代表取締役会長
社長兼CEO(最高経営責任者)
山内 孝

4. 構造改革プランアップデート

今までご説明した通り、中長期見通しの達成に向けて順調なスタートを切る事ができたと評価しています。構造改革プランのそれぞれの施策についても、順調に進捗しています。それぞれの施策につき、内容のアップデートをいたします。

まず、SKYACTIVによるビジネス革新です。

新型CX-5は、新デザインテーマ「魂動デザイン」によるスタイリング、走り、燃費性能を高次元で両立した車両性能に高い評価をいただいています。

販売面でも、グローバルで大ヒット商品となり、且つインセンティブ抑制、残価改善など収益面でも大きな貢献をしています。

需要増に対応した生産能力増強の実施、および北米他への2.5Lモデルの導入により、更なる拡販をめざします。

また、SKYACTIV搭載車両第2弾の新型アテンザを日本を皮切りにグローバルに導入します。既に、先行発売の日本では、新型CX-5同様、予想を上回る受注をいただき、発売から約2ヵ月で9ヵ月分超の受注をいただいています。

新型CX-5、新型Mazda6とも、SKYACTIV-Dが高い評価をいただき、日本では、新しいディーゼル市場を創出しています。

続いて、モノ造り革新による更なるコスト改善です。新型CX-5同様、新型Mazda6も期待通りの成果を挙げています。

また、商品力改善と合わせて、円高環境下でも利益の出る車造りも、着実に前進しています。

グローバル最適調達、外貨建て調達拡大活動の推進による為替変動への耐性強化も実施しています。

新興事業強化とグローバル生産体制の再構築、グローバルアライアンスの推進については上期決算発表後のトピックスを、アップデートいたします。

まず、ロシアでは、ソラーズ社と合弁生産会社で新型CX-5の生産を開始しました。

メキシコ工場の建設は、2013年度第4四半期の操業に向けて順調に進展しています。この度、トヨタブランド車の生産に加え、グローバルで販売好調なSKYACTIV車の販売増に対応するため、当初生産能力の14万台から、2015年度には23万台まで能力増強する事を決定しました。

また、タイでも、SKYACTIV車の需要増に対応し、より強固なグローバル生産体制の確立をめざし、新トランスミッション工場建設を決定しました。稼働は2015年度上期の予定です。

続いて、グローバルアライアンスの推進です。

基本方針である、商品・技術・地域ごとに最適な補完を行う、提携戦略を堅持しています。

まず、トヨタとはハイブリッド技術のライセンスを受ける事に引き続き、メキシコ工場にてトヨタブランド車の生産を2015年夏より開始します。

フィアット社とは、オープン2シータースポーツカーのOEM供給に関する事業契約を締結しました。

また、SKYACTIV技術搭載車を日産にOEM供給いたします。

5. まとめ

これまでのまとめをいたします。

第3四半期累計実績では、売上高1兆5,352億円、営業利益196億円、当期純利益は256億円となりました。

グローバルで販売好調を継続している新型CX-5が業績改善に大きく貢献しています。

通期見通しは、為替前提の変更および固定費の改善により、売上高および全ての利益レベルで上方修正いたしました。

売上高2兆1,900億円、営業利益450億円、当期純利益260億円の見通しです。

新型CX-5、新型Mazda6など、円高環境下でも利益を創出するSKYACTIV搭載車両が、今期の収益拡大に大きく貢献しています。

先ほど、ご説明した通り「構造改革プラン」は着実に進捗しています。

四半期ごとの営業利益、出荷台数および為替レートのトレンドを見ますと、

第1四半期、第2四半期は、円高環境ながら、新型CX-5などSKYACTIV車両の貢献により、黒字化を達成いたしました。特に第2四半期では、全ての利益レベルで黒字化を達成しています。

第3四半期は、中国影響がありながら第2四半期と同レベルの営業利益を達成し、更に第4四半期では、新型Mazda6の導入などSKYACTIV搭載車両の販売拡大により利益が拡大する見通しです。

第3四半期までは、長期化する円高、欧州経済の低迷など、外部環境が極めて厳しい状況が続きましたが、昨年2月に発表した「構造改革プラン」に真摯に取り組んでまいりました。

この取り組みにより、新型CX-5の導入成功、ロシア、ASEANでの現地生産開始・拡大など新興国への取り組み強化、新世代商品でのモノ造り革新によるコスト改善の実現など、着実に成果が実現できていると評価しています。

不安定な需要動向など、第4四半期、更に来期も引き続き厳しい外部環境になる事が予想されますが、これまでのモメンタムを継続し、更に一つ上のステージに上がれるよう、構造改革プランを前進・加速させてまいります。

皆様の引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。

ご清聴ありがとうございました。